

都道府県・指定都市番号	30	都道府県・指定都市名	和歌山県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	福祉
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○生徒の主体的な学習を通して思考力，判断力，表現力等を育成する指導方法及び評価方法の工夫改善についての研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	わかやまけんりつありだちゅうおうこうとうがっこう 和歌山県立有田中央高等学校（421 人）				
所在地（電話番号）	〒643-0021 和歌山県有田郡有田川町下津野 459 （ 電話 0737-52-4340 FAX 0737-52-6749 ）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.aridachuo-h.wakayama-c.ed.jp				
研究のキーワード	言語活動 指導方法 シンキングツール ミニサイズのホワイトボード ワークシート				
研究結果のポイント	○「生活支援技術（医療的ケア）」及び「こころとからだの理解」の特性に配慮し，言語活動の充実を目指した学習内容の設定，基礎・基本の知識の習得と思考力，判断力，表現力等を育むことに視点をいたワークシート等の作成と活用。 ○ワークシートを活用した授業の指導計画，言語活動の内容及び教材等をまとめた「言語活動事例集」の作成。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

生徒の思考力，判断力，表現力等を育成する指導の在り方
 ～福祉科目の特性に留意し，言語活動を活用した授業改善の取組～

(2) 研究主題設定の理由

従前より，福祉科の各科目の授業においては，基本的な知識及び技術の習得の徹底と主体的な学習態度の育成を目指して授業改善に取り組んできた。平成 26・27 年度は，教育課程研究センター指定校事業において，「社会福祉基礎」の指導と評価の一体化を目指した授業計画を作成し，それに基づいて課題解決型の授業展開による実践を行い，その結果を適切に把握するための観点別の評価方法や評価基準について研究することができた。昨年度より，「こころとからだの理解」及び「生活支援技術（医療的ケア）」について，生徒の授業に対する意欲の向上を図り，思考力，判断力，表現力等を育成する具体的な授業展開や指導方法について研究している。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成28年度	<ul style="list-style-type: none">・「こころとからだの理解」及び「生活支援技術（医療的ケア）」の学習内容及び観点別評価の研究・「こころとからだの理解」及び「生活支援技術（医療的ケア）」のワークシート等の作成と授業での活用（公開授業）・「生活支援技術（医療的ケア）」の学習ノートの作成と活用・公開授業と研究協議・三重県立伊賀白鳳高等学校訪問（9月21日）・千葉県立松戸向陽高等学校訪問（11月9日）・大阪市立淀商業高等学校訪問（11月11日）・兵庫県立龍野北高等学校訪問（11月29日）・和歌山県立熊野高等学校訪問（12月21日）・和歌山県立有田中央高等学校指定校訪問（研究授業・研究協議）（1月11日）・平成28年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会（2月5日）
平成29年度	<ul style="list-style-type: none">・「こころとからだの理解」及び「生活支援技術（医療的ケア）」のワークシート等の作成と授業での活用（公開授業）・「生活支援技術（医療的ケア）」の演習の効果的な学習に関する研究・言語活動事例集の作成・言語活動に関する授業の動画編集・和歌山県立有田中央高等学校指定校訪問（研究授業・研究協議）（11月1日）・大阪市立淀商業高等学校訪問（11月21日）・函館大妻高等学校訪問（12月1日）・三重県立伊賀白鳳高等学校訪問（12月13日）・平成29年度国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業研究協議会（2月9日）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

平成28年度は、「生活支援技術（医療的ケア）」の指導方法の工夫と演習チェックシート、医療的ケア学習ノート等の作成と活用により、医療的ケアの演習を効果的に行えるようになった。また、医療的ケア学習ノートを活用し、意欲的に自己学習ができるようになった。さらに、「こころとからだの理解」の授業における言語活動の充実を目指し、その時間を確保するため、ワークシートを活用した。ワークシートでは、基礎的な知識の内容を明確かつ簡潔に示し、言語活動に取り組むための課題を設定した。次に、認知プロセスを外化させるために、多様なシンキングツールを活用することで、考察が深まり、話し合い活動が活発化した。その中で、授業への取組方の指導が重要であることを確認した。

平成29年度は、作成した教材を活用し、生徒自身で学習するスキルの向上や、学習に対する良好な態度や価値観を形成するため、授業への取組方の指導を加味した指導方法のまとめとして言語活動事例集を作成した。

(2) 具体的な研究活動

① 言語活動事例集の作成

事例集には、言語活動に関する授業事例として、「生活支援技術（医療的ケア）」に関する三つの事例、「こころとからだの理解」に関する八つの事例をまとめている。「介護実習」等で、ケアプラン等について偏りなく多角的に検討する態度を身に付け、利用者の生活に寄り添う視点を身に付けるために、授業における言語活動の充実は不可欠である。また、次期学習指導要領では、「主体的・効果的で深い学び、すなわちアクティブラーニングの視点からの学びをいか

に実現するかが重要である」と示されているが、事例集の作成に当たってもこの視点を重視している。授業の組み立てとして、活動性の高い授業を展開するために、活動を分節化した授業展開を考えた。指導計画には、学習のヤマ場となる言語活動を中心に学習活動の内容や指導の留意点を示している。また、言語活動の質を高めるために、「学び方を学べる」授業となるように留意した。例えば、課題や説明をしっかりと読む。他の人の意見を傾聴し理解する。自分の意見を的確に文章化したり、感じ取ったことや理解したことを自分の言葉で具体的に表現できるように取り組む等、一つ一つのプロセスを丁寧に指導している。

② 「生活支援技術（医療的ケア）」における効果的な学習

平成28年度は、生徒が自主的に学習するための教材として、「医療的ケア学習ノート」を活用した。また、演習チェックシートを評価基準が理解しやすいよう改善した。今年度は、講義の授業に活用できるよう、基礎的な知識の習得や課題解決に取り組めるよう留意したワークシートを作成した。演習の授業を行い、感想を書いたり発表をすれば言語活動になる訳ではないと考え、単に医療的ケアの手順を追うのではなく、言語活動を充実させ、安全・安楽の保持や自立支援につながる演習を行えるよう留意し、生活支援の視点で取り組めるよう、演習ワークシートを活用した。

・医療的ケア学習ノートの作成と活用

医療的ケア学習ノートは、生徒が自分で取り組むためのものであり、授業や自宅学習で活用している。

・医療的ケア演習チェックシートの見直し

演習チェックシートは、生徒の実態に合わせて評価項目や評価内容を検討し、安全・安楽や自立支援に留意した正しい技術を身に付けるよう配慮した。そして、学習評価として活用できるよう、評価内容はバランスを考えて配置し、点数化した。

・講義用ワークシート・演習用ワークシートの活用

講義用ワークシートでは、基礎的な知識の習得や深い理解を目指し、演習用ワークシートでは、利用者の生活支援の視点から検討を重ねることを目指した。

③ 「こころとからだの理解」における言語活動の充実

探究型のアクティブラーニングとして、数時間かけて生徒が協力して解決策を考えて発表することも効果的であるが、このような学習を頻繁に取り入れることは難しい。「こころとからだの理解」の学習では、知識を活用するアクティブラーニング型授業を目指し、通常の1回の授業の中で能動的な学びができるよう工夫した。自由度が高い言語活動だけでなく、少しの時間であっても、意見交換をする。演習問題を解く。発表する。小テストを行う。講義の中で実践に関連づけて考察できるような問いかけを行う等の活動を取り入れた。

「こころとからだの理解」の全ての学習内容について、基礎・基本の知識をまとめ、思考力や表現力を育むための課題を設定したワークシートを作成した。「介護実習」等で、利用者のアセスメントを行うとき、「こころとからだの理解」で学ぶ医学的な知識や理解は欠かせない。これまで、多くの知識を学ぶため、50分間の授業は講義と短時間で演習問題ができればよいという状況であった。生徒の主体的な学習のための時間を確保するため、学習内容を精選する等の準備を行った。また、書いたりまとめたりする力を付けるために、ノート指導に力を入れていたが、生徒の状況として、文字を書くのに時間がかかることが多くなってきた。そのため、必要な知識を確実に学び、言語活動を充実させるためのワークシートを作成した。

ワークシートは1時間1シートを基本とし、学習内容を把握しやすいよう留意した。さらに、説明の時間が短縮されても、正しく理解できるよう、スライドを使って視覚的に説明した。言語活動を充実させ、根拠や理由を生徒に考えさせることは重要なことであるが、そのことについて考えるための知識の習得に留意した。そして、ワークシートには、分類する、比較する、評価する、要約する等に関する課題を設定した。

言語活動を活性化し、生徒の意欲を引き出すためにも課題の設定が重要になる。課題の設定に当たっては、学習の目標を達成するのに効果的であり、生徒にとって考えがいのある課題であるかを検討し、記述、説明、話し合い、まとめ、発表等、言語活動の充実に努めた。生徒が課題解決に必要な情報を収集するうえで、その信憑性を確かめ、目的に応じて取捨選択し、分類・整理する必要がある。しかし、グループの話し合いの場面で、意見交換やまとめが苦手な場面も多く、生徒の考える力や話し合う力を引き出し、伸ばすためにシンキングツールを活用した。また、話し合いを活性化し、効果的に行うために、模造紙やミニサイズのホワイトボード、あるいは付箋紙やメモカード等を使って、それぞれの考えを書き出して可視化することは効果的であった。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

- 「生活支援技術（医療的ケア）」の指導方法の工夫により、演習の手順に戸惑うことが少なくなり、利用者の観察や態度・声かけ等に工夫がみられるようになった。
- 「こころとからだの理解」において、言語活動の充実を目指した学習内容の設定、基礎・基本の知識の習得と思考力、判断力、表現力等を育むことに視点をおいたワークシートの作成及び活用によって、内容を省略することなく、基礎的な知識を学ぶための時間を短縮し、言語活動に取り組む時間を確保した。討論や説明、感想の発表、生徒同士の学びの共有、協働してまとめる等の多様な活動を取り入れ、話し合い活動が活発化した。
- グループ学習等による授業展開であっても、授業終了後にワークシートの記述等から適切な観点により評価することができた。
- 生徒の理解に合わせた課題の設定に留意したが、授業の目標を達成するために、教員の資料の準備や声かけによって強く誘導することも少なくなかった。
- 課題に対し、生徒が自分達でゴールできるよう、段階を追って解決できるような手立てを準備する必要があるが、それを低減していく過程も今後の課題である。

4 研究協議会の中で協議したいこと

- 「こころとからだの理解」の授業で活用している、生徒の興味・関心を高めたり、主体的に学ぶための教材について。

5 今後の取組

課題の設定については引き続き検討する必要がある。また、学習課題の難易度に留意するとともに、協働して学ぶ態度を身に付けるための授業の構造化を通して生徒の活動を支援することは必要であるが、生徒の取組状況を見ながら、主体的な学習者として成長する過程をどう進めていくかについて考えていきたい。